

子どものあそび環境

— 1982年、1996年、2001年の比較(1) —

○金築 優子 久本 信子 三笠 友紀恵

(夙川学院短期大学)

1. 研究目的

子どものあそび環境について、1982年の調査を機に、これまで活動的なあそびの好き嫌い、戸外あそびの多少、あそびの場所や時間、あそびの種類その他生活関連の環境を含め、その実態を調査・分析してきた。その結果のひとつに、好ましい居住環境は子どもの戸外あそびを助長することが、環境による地域差から明らかになった。しかし、一方では活動的なあそびを好む子どもが増加しているにも関わらず、戸外であそべない、あそばない現状があることもわかった。

第51回大会において1982年と1996年の調査結果の中で特に「あそび場所」「交通量」「友達」といったあそび環境の悪化を指摘したが、社会の変化に伴い、今後ますます子どものあそび環境の劣悪化が懸念される。

そこで今回は2001年のデータを加え3回のデータの一部を比較検討していきたい。

2. 調査方法

調査期日 第1回調査1982年7月中旬

第2回調査1996年7月中旬

第3回調査2001年7月中旬

調査対象 第1回調査3歳～6歳の幼稚園児1006名
(男子537名、女子469名)

第2回調査3歳～6歳の幼稚園児1053名

(男子518名、女子535名)

第3回調査3歳～6歳の幼稚園児809

(男子372名、女子437名)

調査方法 質問紙法 幼稚園を経由して園児の保護者に回答を依頼

[回収率 83% (1回) 82% (2回) 77% (3回)]

調査地域 都市中心部地域—商業、住宅混在地域
住宅地域—大都市の中心圏にある中小都市
の住宅地域

中小都市周辺部地域—田畑が残っている
地域

調査の概要※○あそびに関する質問5項目

※○戸外あそびに関する質問5項目

○テレビ視聴に関する質問3項目

○習い事に関する質問5項目

○子どものからだに関する質問

○その他9項目

前記※の中の6項目について今回発表する。

3. 調査結果

①地域のあそび環境〈複数回答〉

「広い遊び場所の有無」については、82年と96年の間にそれほど差はないが、01年になると「広いあそび場所がある」は増加している。いずれの年も住宅地域、中心部地域、周辺部地域の順に「広い場所」があり、3地域とも「広い場所がある」は01年が最も多い。

「交通量の多少」については、01年になるほど交通量は多くなっている。そして地域の比較では、いずれの年も中心部地域、住宅地域、周辺部地域の順に交通量が多い。さらに、住宅地域は01年になるほど交通量が増加し、この割合は他の地域に比べて高い。

「あそび仲間がいる」については82年から96年にかけて減少している。96年から01年にかけて中心部地域は増加しており、住宅地域はほぼ横ばいの傾向で、周辺部地域では減少傾向にある。しかし、周辺部地域においては減少しているとはいえ他の地域に比べ、近所にあそび仲間がいる割合は高い。

②活動的なあそびの好き嫌い

01年になるほど、活動的なあそびを好む子どもはいずれの地域も増加している。全体から見ると、01年は好む56%、まあまあ好む23%、普通19%である。また、82年の中心部地域の「好む」子どもは他の地域に比べて少なかったが、96年以降ほとんど地域の差は見られなくなった。

③あそびの内容〈戸外あそび・室内あそび〉図—1

「戸外あそびが多い(やや多いを含む)」「戸外・室内半分」「室内あそびが多い(やや多いを含む)」という3つの区分で見ると、01年になるほど戸外あそびが少なくなり、室内あそびに増加傾向が見られた。特に01年は82年と比較すると、戸外であそぶ子どもは25%減少している。地域の比較で82年から96年にかけて、住宅地域、中心部地域の戸外あそびは16～18%減少しているのに対し、周辺部地域は26%ものが見られた。しかし、周辺部地域の96年と01年はほぼ横ばいを示している。しかし、減少といっても周辺部地域は他の地域より戸外であそんでいる割合は高い。

問題は住宅地域で、01年になるほど戸外あそびが減少している。特に96年から01年にかけて他の2地域はほとんど減少が見られず、住宅地域の11%減少は極めて高い数値といえる。①のあそび環境では、3地域の中で最も「広いあそび場所」があり、「あそび仲間」もそこそこおり、かつ②の活動的なあそびを好む子どもが多い地域のこのような状況は、他に戸外あそびを阻害する要因があるのではなからうか。

④よくあそぶ場所 図-2

よくあそぶ場所については、公園や空地等の戸外より、「家の中」をあそび場所としている子どもの方が多いということが顕著に現れている。01年になるほど家の中であそぶ子どもは増加している。他方、「公園・空き地」「道路・駐車場」をあそび場所としている子どもは82年から96年にかけて大きく減少し、96年から01年にかけてあまり減少はない。「家の中」を見ると、82年と96年では、住宅地域（20%）、中心部地域（12%）、周辺部地域（11%）の順に家の中であそぶ子どもは増加している。増加率の最も高い住宅地域の子どもはさらに中心部地域の子ども以上に家の中であそぶようになっている。ここでも④あそびの内容のところで述べた「広いあそび場所」があるが「家の中」であそぶ住宅地域の子どもが垣間見える。また、中心部地域では「学校や幼稚園の運動場」の開放がすすんでいることがわかる。

⑤よくあそぶ相手

01年になるほど、両親や兄弟といった「家族」とよくあそび、「同年齢や異年齢の友達」とあそぶようになる傾向が見られる。また、いずれの年も周辺部地域、住宅地域、中心部地域の順に「友達」とよくあそぶ傾向にある。しかし、3地域とも01年になるほど「友達」とあそぶ子どもは減少し「家族」とあそぶ子どもは増加している。

⑥戸外あそびの時間

「2時間以内」「2時間以上」という区分で考察する。82年で、「2時間以上」が多かったのは、周辺部地域、住宅地域、中心部地域の順であった。96年と01年を見ると、周辺部地域は82年と同様「2時間以上」戸外であそぶ子どもは最も多い。しかし、住宅地域と中心部地域では両者の差はほとんど見られなくなっている。そして、82年から96年にかけて「2時間以上」戸外であそぶ子どもは3地域とも大きく減少したが、96年以降は住宅地域と周辺部地域は横ばいの状況となっている。また、周辺部地域はいずれの年も他の地域に比べて「2時間以上」戸外であそぶ割合は高く、特に「3時間以上」あそんでいる子どもは他の地域に比

べて極めて多い。

4. まとめ

82年から01年にかけて、活動的なあそびを好む子どもが増加しているにも関わらず、戸外あそびはなお減少の傾向を示している。3地域ともに82年から96年の15年間にあそび環境の悪化は著しいものであったが、96年から01年の5年間にあそび環境はあまり大きな変化は見られなかった。しかし、01年の住宅地域において戸外あそびの時間が減少し、あそびの室内化傾向が中心部地域や周辺部地域に比べて著しくなっている。これについては今後、他の項目を分析し、てがかりを得たい。

あそび環境としての唯一良好な兆しは、01年に「近所にあそび場所がある」の回答が増加したことである。次回は他の調査項目について分析していく予定である。

